

葬祭流儀

そうさいりゅうぎ

大切な人を送る

葬儀

スタイルマガジン

東京版

with

終活Cafe 2020-2021年度版

令和時代の葬儀・供養・終活を考える

11月号

特別号

特別価格
380円(税込)

特集

「お葬式」から「お終活」まで
葬儀終活映画をひも解く

特集

葬儀・供養というグリーフケア

大切な人を亡くしたとき
あなたは立ち直れるか？

東京の葬儀社

令和2年をコラムで総括

特集「こんな時代だから私の思い……」

終活トピックス



経済産業大臣認可 全日本葬祭業協同組合連合会

今回取材させていただいた全日本葬祭業協同組合連合会は、日本最大の葬儀社の全国組織として、さまざまな取り組みを行っている。和合副会長の話にもあった「葬祭サービスガイドライン」など、取り組みの一部を紹介する。



全日本葬祭業協同組合連合会が協賛した映画「ゆずりは」(2018年公開)

葬祭サービスガイドライン

消費者からの要請に応え、消費者保護のための業界初の葬祭業者向けルールブックとして2007年に制定。顧客情報の守秘義務、説明責任、料金体系の明確化、見積書交付の義務化が定められ、全葬連の加盟葬儀社はこの「葬祭サービスガイドライン」を順守している。

信頼できる葬儀社の全国ネットワーク

安心と信頼のお葬式紹介サイト 全国1,287社(2020年9月現在)の加盟葬儀社が「葬祭サービスガイドライン」を順守した信頼できる葬儀を提供している。

if 共済会 全葬連が行っている安心と信頼の生前予約会員制度。

国際葬儀連盟 (FIAT-IFTA)

全葬連は、世界88(2018年時点)の国と地域が参加する国際葬儀連盟 (FIAT-IFTA) に日本を代表して加盟し、世界各国と積極的に交流を図りながら、世界における葬祭業の発展、儀礼文化の推進のために努めている。

取材先: 全日本葬祭業協同組合連合会
東京都港区港南2-4-12 港南YKビル4F
TEL.03-5769-8701
http://www.zensoren.or.jp/



全日本葬祭業協同組合連合会 専務理事 松本 勇輝さん

1992年からシリーズで放送された2時間テレビドラマで急死した父の家業である葬儀社を継いだ女社長役の片平なぎささんと、先代社長の遺言を守るべく奮闘する専務を演じる大村昆さんを中心に事件がらみのストーリーが展開していましたね。

和合 その大村昆さんが喪主との打ち合わせから帰ってきた片平なぎささんに、「なんぼの葬儀入りましたか?」「家は大きかったですか?」「大きい見積取れましたか?」と聞く。私はドキッとしました。私たち葬儀業界は「価格が見えにくい」とか、「見積額と請求額が違う」とかいわれています。一部にはそうした心無い葬儀社も

ありますが、一般の皆様にとって葬儀社に相談に行くのは敷居が高かったように思いますが、映画が上映されると葬儀に対する皆様のお気持ちが変わり、葬儀社に事前相談に行くことの敷居が少し低くなったように思っています。それまでは自分や身内の死を前にすることを嫌だという人がほとんどだったと思います。それが、映画がきっかけになって、ご自身やご家族の葬儀を考える方がずいぶん増えたと思っています。

最近の映画でしたら「ゆずりは」は。コロッケさんが本名で出演し、芸風を封印して私たちの業界に沿うような形で立ち居振る舞いが、映画がきっかけになって、ご自身やご家族の葬儀を考える方がずいぶん増えたと思っています。

映画の中で葬儀や葬儀社の描かれ方についてはどうですか。
和合 映画ではありませんが「赤い霊柩車」。

1992年からシリーズで放送された2時間テレビドラマで急死した父の家業である葬儀社を継いだ女社長役の片平なぎささんと、先代社長の遺言を守るべく奮闘する専務を演じる大村昆さんを中心に事件がらみのストーリーが展開していましたね。

和合 その大村昆さんが喪主との打ち合わせから帰ってきた片平なぎささんに、「なんぼの葬儀入りましたか?」「家は大きかったですか?」「大きい見積取れましたか?」と聞く。私はドキッとしました。私たち葬儀業界は「価格が見えにくい」とか、「見積額と請求額が違う」とかいわれています。一部にはそうした心無い葬儀社も

ありますが、一般の皆様にとって葬儀社に相談に行くのは敷居が高かったように思いますが、映画が上映されると葬儀に対する皆様のお気持ちが変わり、葬儀社に事前相談に行くことの敷居が少し低くなったように思っています。それまでは自分や身内の死を前にすることを嫌だという人がほとんどだったと思います。それが、映画がきっかけになって、ご自身やご家族の葬儀を考える方がずいぶん増えたと思っています。

最近の映画でしたら「ゆずりは」は。コロッケさんが本名で出演し、芸風を封印して私たちの業界に沿うような形で立ち居振る舞いが、映画がきっかけになって、ご自身やご家族の葬儀を考える方がずいぶん増えたと思っています。

映画の中で葬儀や葬儀社の描かれ方についてはどうですか。
和合 映画ではありませんが「赤い霊柩車」。

葬儀終活映画に登場する葬儀会場や用具の提供をはじめ、時代による変化や地域によって異なる葬儀習慣のアドバイスなど、葬儀終活映画を裏から支えてきた葬儀業界。そうした葬儀業界と映画業界をつなぐ窓口的な役割を務めてきた全日本葬祭業協同組合連合会(以下、全葬連)の和合健一 副会長と松本勇輝専務理事に葬儀業界側の視点も交えて葬儀終活映画についてお聞きした。

葬儀終活映画特集③ 葬儀業界から見た葬儀終活映画

葬儀終活映画を裏から支えてきた葬儀業界。業界視点で、葬儀終活映画をひも解く。



全日本葬祭業協同組合連合会 副会長 和合 健一さん

